久慈農業改良普及センターだより

あぐりあす

普及センター情報　199 号
平成 20 年 7 月 25 日発行 久慈農業改良普及センター
TEL：0194-53-4989　　FAX：0194-53-5009
e-mail:ce0026@pref.iwate.jp

～お知らせ～
普及センターホームページが移転しました。検索画面にて‥　久慈農業改良普及センター　公式　検索

○　野田村りんどう産地復興への第１歩をスタート！（野田村）　○

野田村は久慈地方における花き栽培の中心地域で、最盛期にはりんどうの販売額が６千万円まで達していました。しかしその後、作付け圃場の条件が悪かったことや生産者の高齢化などの理由により昨年度は 1 千万円まで減少しています。そのため、これまでの経過を振り返り、再び産地化を目指す取組ができないかと、相互圃場巡回と意見交換会が開催されました。

相互圃場巡回ではりんどう圃場の劣化が進んでいることや、管内でもこぶ症が増加しているといった現状を改めて認識しました。

意見交換会で今後の作付け意向を確認したところ、拡大もしくは現状維持とする意見、今の圃場が採れなくなったら辞めるという意見が半々でした。

相互巡回の様子

また、「いい条件の水田を確保するためには農業委員会の協力が必要だ」などの要望も多く出されました。今後、生産者と関係機関・団体の連携を一層密にしてりんどう生産振興に改めて取り組むことが確認され、産地復興に向けた第１歩をスタートしました。

○　ほうれんそう中核農家研修会を開催（久慈広域）　○

７月４日に久慈市山形町岡堀でほうれんそう中核農家研修会が開催され、40 名を越える生産者が集まりました。前半はほうれんそうの生育の斉一化と作業の省力化をテーマに、圃場準備から防除に係る機械の実演が行われました（実演機：深耕ロータリー、広幅整地ロータリー、電動アシスト播種機、肥料混合散布機、軽量立鎌、プラソイラ、自走式防除機）。今すぐ使える道具や機械からこれからハウスを増やした時に検討すべきものなど様々ありましたが、参加者の皆さんも興味深く見学しているようでした。また、後半では県北農業研究所より講師を招いて害虫の生態と防除法についての研修会が行われ、ケナガコナダニやシロオビノメイガといったよく見るものから、カメノコハムシやハリガネムシなど馴染みの薄い害虫まで幅広く紹介されました。今後のほうれんそう生産に役立てられるものと期待されます。

実演された自走式防除機

編集部注：機械の注文については農協までお問い合わせ下さい。また、購入にあたっては経営規模を十分に吟味し、本当に必要な機械を購入するようにしましょう。

○　エコファーマーへの道　その１　○

ここ数年、久慈地域では自発的にエコファーマー認証を受ける生産者の方が増えてきました。平成 12 年にこの制度がスタートして既に８年目、認証の更新にあたる方もいらっしゃいます。そこで、改めてエコファーマーとは何なのか、認証を受けるにはどのような準備が必要なのかを何回かに分けて説明していきたいと思います。

「エコファーマーってなんだっけ？」

まず、エコファーマーとは何か？ということですが、簡単にまとめると**①堆肥等の有機質資材の施用、②化学肥料低減、③化学合成農薬低減**という３つの技術を合わせ**「環境負荷を低減し、持続的な生産を実践する農業者」**のことで、その生産計画が知事に認定され、計画に沿って農産物を生産することが求められます。

＊今回の連載はエコファーマー認定までの説明になります。既に認定を受けている生産者におかれましてはこの資格を**“食の安全安心”**へ向けた取り組みの第一歩として、更に特別栽培や生産工程管理手法（ＧＡＰ）等の新たな取り組みのきっかけとして活用していただけると幸いです。

○　ちょっと待った！　○

― シゲさんの農薬の正しい使い方講座 ―

わがね～よ～・・・どれさにも同じ農薬

じじ：「菜っ葉さアオムシいっぺくっついでだ」
ばば：「薬さかげっぺ」
じじ：「ほうれんそうで使う○○○○乳剤いいべか」
ばば：「なんでもよがんす―――早ぐかけでけろ」
嫁ッコ：「だめだめ！○○○○はほうれんそうとネギは使えるけど白菜とキャベツには使えないんだよー。普及センターの人が気ぃつけろっていってたべ」
じじ：「なぁに、農協さだすのでねばいがべじゃ」
嫁ッコ：「だめだってば！農薬はビンさ貼ってあるラベルの通り使うから、食べ物の安全が確保されるんだって。うちの子達も食べるんだから！」
じじ・ばば「んだか、孫さばいいもの食べさせねばねしな・・・」

シゲさん

農薬には農薬取締法で「農薬使用基準」が決められています。使える作物、使用量、希釈濃度、使用時期（収穫前日数）、使用回数などがラベルに書いてあります。また、刺激性、養蜂や養蚕、養魚地での注意点などの「使用上の注意事項」も明記されていますから、手元の農薬ラベルをじっくり読んでみましょう。

農薬ごとに定められている「**使用者**が遵守すべき基準（農薬使用基準）」
（適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数）の遵守

○産直の名（迷）物を求めて○

「キセル（戸呂町産直）」

今月紹介するのは農産物から少々趣向を変えまして戸呂町産直で販売しているキセルです。はじめて見たときは何やら木が捻ってあるように見えて奇妙な感じがありましたが、触ってみる手触りといい色合いといいなかなかに趣があります。

お値段も十数センチで数百円と手頃なものから 30 センチ以上もあるもので数千円と様々。工芸品として飾ってみてもおもしろそうです。

写真は十数センチのもの

○ 技 術 情 報 ○

◇◆ ほうれんそう ◆◇

☆ 夏の高温期はハウスビニールをできるだけ開放して換気に努めましょう。
☆ 遮光資材を積極的に活用しましょう。
☆ べと病の予防散布の徹底、シロオビノメイガにも要注意です。
☆ ９月の出荷量を確保するため、タネをまいてからお盆を迎えましょう。

１．夏期の高温対策

・ハウスの側面ビニール、前後のツマ面ビニールを完全に開放し、換気に努めましょう。
・収穫時～播種時には、遮光幕を掛けてハウス内の温度を下げましょう(発芽を確認したら夕方外します)。資材は、ダイオシート(黒、遮光率 80%)やミラクール(白、遮光率 70%)等を用います。また、生育中に高温が続く場合は、遮光率 30%程度の寒冷紗やクールホワイト等で遮光しましょう。逆に、やませなどで日射量が少ない日が続く場合は、外して徒長しないようにしますが、そのような天気から一転して暑くなった場合は「葉焼け」や「しおれ」、「萎凋病」が多発しますので、早めに遮光することが大切です。

２．シロオビノメイガに注意！

・８月以降シロオビノメイガが多発する時期をむかえます。若齢幼虫は新葉を、中～老齢幼虫は展開葉を食害します。ハウス内外をよく観察し、薬剤散布が遅れないように気をつけましょう。

３.べと病対策

・お盆すぎからの秋雨の時期には、べと病が再発してきますので、ハウスの換気や薬剤の予防散布を的確に行い、発生を未然に防止しましょう。

４．９月は高値の時期です

・例年９月の収量が大きく落ち込みます。今年は、お盆前にもしっかり種子（タネ）をまき、９月の高値を期待しながらお盆をむかえましょう。
・収量がハウス(30 坪)当り 10 ケース以下に減少してくるようならば、クロルピクリン錠剤等の土壌消毒を実施し、９月の収量アップを目指しましょう。（２０ケース以上の収量も可能です。）

◇◆ 水 稲 ◆◇

☆ 低温に備えて深水管理にし、稲を低温から守りましょう。
☆ 穂いもち予防のため粒剤を施用しましょう（いわてっこ以外の品種）
☆ 斑点米カメムシ類の防除（草刈と薬剤防除）をきちんと行いましょう。

1.冷害回避の水管理（減数分裂期）

７月下旬～８月上旬には、生育ステージも減数分裂期になっています。この時期に 17℃以下の低温に当たると花粉が作られず、不稔が発生します（障害不稔）。低温が予想される場合には、15㎝ 以上の深水で穂を低温から守りましょう。

２．登熟を低下させない水管理

出穂後は「間断かんがい」とし、落水時期は出穂後はおおむね 30～35 日頃を目安にします。

３．斑点米カメムシ類の防除

○一斉草刈：７月 20～30 日（水稲の出穂 15～10 日前まで）。

水稲の出穂直前～出穂後に草刈りをすると、田んぼにカメムシを追い込み逆効果になりますので、籾が硬くなるまで（出穂後２～３週間）草刈りを待ちましょう。

※畜産農家の皆様も、２番草収穫にあたっては水田周辺部の牧草地から始める等、できるだけこの時期に行い、斑点米の被害軽減にご協力をお願いします。

○薬剤防除：粉剤、乳剤等の場合が「穂揃い１週間後」、粒剤の場合は「穂揃い～穂揃い１週間後」

○ミツバチの巣箱が近隣にある場合「ダントツＨ粉剤ＤＬ」「スタークル粉剤ＤＬ」はミツバチに対して毒性が強いので、他の薬剤を選択しましょう。

◇◆ 花　き ◆◇

☆　りんどう：選別の徹底
☆　小ぎく：親株の選抜・養成

１　りんどう

収穫は朝夕の涼しい時間帯が基本です。やむを得ず日中高温時に収穫する場合は速やかに作業場に移し水揚げしてください。株養成のため一株２～３本は残しましょう。

子房が膨らんだ老化花や病害虫の被害を見逃さないよう、選別は明るいところでしっかり行いましょう。水揚げは４時間程度を目安に行ってください。

収穫後の圃場では病害虫の耕種的防除・株養成のために花の部分を折り取ると効果的です。

２　小ぎく

収穫前に来年の親株を選抜しましょう。病害虫のないもの、草姿のよいもの、生育の良いもの、開花が揃うものを基準に選抜します。極端に草丈の低い株はわい化病に感染しているおそれがありますので、発見次第抜き取り処分してください。

収穫後は母株養成のため、マルチを剥がし追肥・土寄せを行います。地上部が伸びすぎないよう地際から５～10㎝程度で台刈りしてください。

◇◆　果　樹　◆◇

○ヤマブドウの枝管理

果実品質向上、隔年結果防止のために、それぞれの葉に日があたることが重要です。枝が絡み合い、混み合っているときは、巻きひげをはずし、枝を下垂させるようにしましょう。それでも混み合う場合には１房あたり葉が４～５枚程度の残るように枝を切り落としましょう。房の周りの葉は果実の成熟等に重要ですので、落葉までそのままにしましょう。

○散布前に農薬の収穫前日数、使用回数を確認しましょう

収穫の比較的早い、ももやりんご、なしの早生種などの農薬散布時には特に気をつけましょう。ラベルを確認し、収穫前のいつまで農薬の散布可能か、これまで何回、同一成分の農薬を散布したか確認しましょう。

除草剤にも農薬の使用制限がありますので、果樹類または各作目に登録が取れているか、いつまでの使用か等、確認の上、使用してください。

＜果樹に登録の取れている除草剤の例＞

商品名	適用樹種	使用時期	使用回数
ラウンドアップハイロード ラウンドアップマックスロード	果樹類	収穫７日前	３回（グリホサートを含む剤の総使用回数）
タッチダウンｉＱ	果樹類	収穫５日前	
バスタ液剤	りんご	収穫 21 日前	３回（グルホシネートを含む剤の総使用回数）
	ぶどう、なし、かき、うめ、もも、おうとう、ブルーベリー	収穫前日まで	
	くり	収穫 30 日前	